

# 中村橋駅周辺まちづくり検討会 第1回全体会 議事要旨

[日 時]

令和4年7月7日(木) 18時30分から20時00分まで

[会 場]

サンライフ練馬3階 研修室第一・第二

[出席者]

委員長 山本(学識経験者)

副委員長 秋元(美術館長)

委員 杉崎(学識経験者)、江村(商店会)、関口(商店会)、内田(商店会)、  
田中(商店会)、神藤(町会)、長坂(町会)、海老名(小学校PTA)、  
今田(区民)、須藤(区民)、前田(区民)

小金井(区地域文化部長)、宮下(区都市整備部長)、関口(区産業経済部長)

オブザーバー 荻原(専門調査員)

[事務局]

美術館再整備まちづくり担当課 竹内、松本、中山、納谷

美術館再整備担当課 稲永、橋本、末田、竹清

[傍聴者] 0名

[議事次第]

1. 開会

2. 議題

(1) 中村橋駅周辺基礎情報について

(2) 地域のまちづくりを進めるにあたって検討すべき事項について

(3) アンケート調査実施について

3. その他

[配布資料]

- ・ 検討委員一覧
- ・ 中村橋駅周辺まちづくり検討会設置要綱
- ・ 資料1 中村橋駅周辺まちづくり検討会について
- ・ 資料2 中村橋駅周辺まちづくり検討会 基礎資料(別紙 地域概況図)
- ・ 資料3 アンケート調査実施について(別紙 アンケート用紙)
- ・ 参考 練馬区立美術館再整備基本構想、地区計画パンフレット(北口地区・南口地区)、  
中村橋駅周辺施設統合・再編に関するオープンハウス資料

[意見として出された項目]

- ① 検討の進め方について
- ② 「美術館のある街 中村橋」実現に向けた取り組み
- ③ 駅周辺のまちづくり（住宅、道路等）
- ④ 美術館と商店街
- ⑤ 中杉通り
- ⑥ 美術館の再整備に対する要望
- ⑦ その他

① 検討の進め方について

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討範囲は、練馬区立美術館・貫井図書館、サンライフ練馬、美術の森緑地、検討内容は、「まちと一体となった美術館」という理解でよいか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討範囲、検討内容は、美術館のことだけではなく、それ以外のこと（周辺地域の状況）も含めて考え、検討を進めていく。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局側で考えた“検討すべき事項”については、次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「美術館のある街 中村橋」実現に向けた取り組みについて</li> <li>○ 町会、商店会等と連携したまちづくりについて</li> <li>○ 地域の交通環境の向上について</li> </ul> </li> <li>・ これ以外にも、幅広くご意見をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “「美術館のある街 中村橋」実現に向けた取り組み”と、“町会、商店会等と連携したまちづくりについて”は、同一の内容として認識しているのか。美術館を中心に、町会、商店会等と連携したまちづくりの検討を進めていくということか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「全体会」と2つの「駅周辺まちづくり部会」、「美術のまち部会」で検討を進めていく。より具体的に深く検討する部分は2つの「部会」で、いろいろなご意見、相互に関連する部分や分けられない部分については「全体会」で進める。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「美術のまち部会」は、具体的に何をするのか。「駅周辺まちづくり部会」とは、どう棲み分けるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「美術のまち部会」では、美術館の再整備に併せて、例えば、町会、商店会を含む地域の“回遊性”を持たせるとか、活動の場などをつくっていくとか、ハード、ソフトともに考えていきたい。</li> <li>・ 「駅周辺まちづくり部会」では、いろいろなまちの課題について、美術館の再整備を機会に改めて検討することを考えている。まずはエリアを決めず、周辺の動向や残っている課題などについて整理したい。</li> <li>・ 相互に重なる検討部分もあり、委員の方の中には両部会に参加いただく方もいる。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの部会の“検討すべき事項“の重なりあう部分をもう少し整理したい。「美術のまち部会」は、動線や街中において美術を感じる雰囲気づくりである。一方、「駅周辺まちづくり部会」は、生活の中の課題に対する検討という認識である。</li> <li>・「駅周辺まちづくり部会」については、委員や区の皆さんの中には、昔からまちづくりの議論をされている方がおり、私も、電線地中化やバス乗降の位置などについて議論したことがある。本日出された課題の中には、既に議論として出ている内容もある。</li> <li>・今までの議論の蓄積があると思われ、事務局に情報の整理をお願いしたい。今までの議論をふまえた、次の段階の議論をしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの課題については、昔と今で状況が変わってきている部分もあり、現時点では違う対応もあるかもしれないため、今まで残してきた課題も含め、改めて整理したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美術のまち部会」の議論では広く意見を求めるためにも、例えば、他の商店会の方や小学校PTAの方と一緒に考えてはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美術のまち部会」のメンバーについては、起点となる最小範囲で設定している。今後の検討の中では、関連する組織や新たなメンバーに入っていただくこともある。必要であれば他の町会、商店会、場合によっては事業者の参加も考えられる。柔軟に対応したい。</li> </ul>

## ②「美術館のある街 中村橋」実現に向けた取り組み

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に美術館は外へ見せるものであるが、住民目線に立った地元活動のための美術館という考え方もあると思う。</li> <li>・美術館へ住民をどう参加させ、まちの活性化を図るかが大事である。例えば、毎年開催する“盆踊り”は、住民を巻き込むことで、開催2日間で約5千～6千人集まる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“住民参加”は、とても重要な視点である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「練馬区立美術館再整備基本構想」の“アーティスト・イン・レジデンス”については、美術館と地域を結ぶような交流・活動ができればと考えている。若手作家さんは、地域の歴史や魅力を掘り起こしてくれそうである。お祭りへの参加や、盆踊りの作詞作曲なども期待でき、とても有効なプロジェクトであると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美術のまち部会」では、建物を建替える場合の規制や協力による、美術的な感覚を持った色合いや形などを誘導するような検討をしたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>各店舗でのシャッターアートなどは協力できると思う。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体の視点からも、中村橋周辺のまちづくりを考えていきたい。</li> <li>美術館の再整備に向けた検討は、令和9年度までと時間が限られる。これから作る美術館をきっかけに、中村橋周辺の賑わいなどをつくりたいと考えている。</li> <li>美術館へのアプローチは電車、バスによる南北方向、東西方向からであり、それに対し“回遊性”を持たせたい。“回遊性”は美術館周辺だけでなく、広いエリアでも考えていきたい。</li> <li>ハード的な取り組みもあるが、実際はイベントなどソフト面の取り組みが現実的である。例えば、美術館と商店街が連携した活動などである。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>「練馬区立美術館再整備基本構想」では具体的な取組例として、“駅構内での美術館案内やアート作品の展示”、“駅から美術館へ続く道路や壁面などの動線整備”などを挙げている。これらの取組について「美術のまち部会」では、どのエリアで、どうやっていこうかといった検討を考えている。また“企画展と連携した商店街イベントの実施”と挙げており、美術館と商店街でどのようなコラボができるのかなどの検討を考えている。</li> </ul>

### ③ 駅周辺のまちづくり（住宅、道路等）

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館の周りの道路は、一方通行が多く、グルッと回ってみると危ないと感じるところが多々ある。美術館の駐車場、道路での車イス移動における安全性を確保して欲しい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>中村橋駅には駅前ロータリーがないため、常時タクシーはいない。美術館へ来たお年寄りがタクシーで帰りたくても、タクシーを捕まえにくい場所であり不便である。美術館までタクシーの通れる道路が整備されるとよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前へのロータリー整備は、現実として難しい。</li> <li>まちへ車を入れるということは、車社会とどう仲良くするかである。既存の道路からまちの中へ車を入れる場合は、例えば、セブンイレブンのある交差点や、信号機のある中村橋西歩道橋交差点からになる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体障害者やご高齢で歩けないという方が、美術館を楽しむために、ハードでできない部分は、ソフトで工夫することも考えられる。みんなで知恵を出し合いながら検討を進めたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館周辺は、道路が平坦で駅近のため、子育て世代がベビーカーを押していても問題ない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館に近い駅北口商店街と、千川通り南側の商店街では、感覚や認識が少し異なる。千川通り南側は既に、碁盤の目のような道路整備が済んだ便利な住宅</li> </ul>

	地域であり、今の環境のままでよいと思う。
委員	・人口が増えた今こそ、車社会との共存を検討すべき。現状、向山エリアではタクシーやバス交通の利便性が悪い。
委員長	・地区によって、それぞれの特徴や課題は違う。共通部分を寄せ合うことで、良いものをつくっていききたい。

#### ④ 美術館と商店街

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街にとって、来客のある美術館・図書館は地域の財産であると思っている。美術館への来客は、電車アクセスの方が多。また千川通りには阿佐ヶ谷から来る関東バスのバス停がある。車で来られる方は少ない。図書館は地域の方が利用するため、アクセスは自転車、徒歩である。</li> <li>・アートのまち、美術のまちとして実感できる、まちのイメージが必要であると思う。美術館の再整備に合わせて、中村橋駅と美術館をつなぐ駅南口広場や駅北口と側道を、美術と一体となった街並み、道路としていきたい。</li> <li>・西武線の高架化で、駅から美術館へのアクセスルートが変わった。昔は、商店街を北上してから左折する動線であった。西武線が高架化した現在のアクセスルートは、新たに整備された線路北側の側道や、駅南口広場を通り高架下を潜るルートであり、商店街を通らない駅から美術館への動線となっている。</li> <li>・現在、美術館と商店街のタイアップとして、美術館へ商店街のクーポンやチラシを置くなどしてもらっている。また商店街に美術館のポスターを張るなどしている。</li> </ul>
----	---

#### ⑤ 中杉通り

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中杉通りは、千川通りから目白通りに向けて一方通行であり、千川通りの入り口では、朝と夕は車を通行止めになっている。</li> </ul> <p>(交通標識：7時30分～9時、16時～19時は自転車・歩行者以外は通行できない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただし、枝道から中杉通りに車が入ってくる。朝と夕の混雑時は歩車が混在し危険な状況になる。</li> </ul>
----	--

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 20 年に整備された補助 133 号線に車が通るようになり、中杉通りの車の交通量は、当初に比べ減ってはいる。</li> <li>中杉通りは現在、「都道」である。補助 133 号線の整備後には中杉通りを「区道」にする検討がされてきたが、10 年経っても移管に至っていない。一定時間の車両通行止めなどの交通規制変更は、警察が窓口であり、沿道権利者に反対の方が 1 人でもいると、変更を認めてもらえない。区が管理する「区道」になれば、東京都の管理のときよりは、交通規制の検討がしやすくなると思われる。また、商店街前の路面はデコボコであるため、東京都に補修をお願いしたが、区への移管が協議中であるためとして、対応してもらえない状況である。</li> </ul>
委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>中杉通りは、2つの部会で検討していく課題である。</li> <li>中杉通りは、将来、東京都から練馬区へ移管する予定だが、東京都との協議が進んでいない。そのような状況ではあるが、東京都と協議を重ねることで、一部カラー舗装にするなどの再整備は行ってきた。移管の目途が経たない中ではあるが、今回、何ができるのか検討したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>中杉通りの車流入の抑制や道幅拡張などは、長い目で考えていかないと難しい。無電柱化なども検討してきたが、実現できていない。</li> </ul>

## ⑥ 美術館の再整備に対する要望

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>車イスにとって、現美術館の駐車場が非常に危なく（利用しづらく）、検討をお願いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>現美術館西側の駐車場は、美術品搬入等で利用するとともに、車イスの方や体の不自由な方が利用する駐車場でもある。</li> <li>現在、段差などがあり、車イスの方などには使いにくい状況である。頂いたご意見は、美術館の再整備で参考にしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物内については、エレベーターが何処にあるのか解りにくい。</li> </ul>

## ⑦ その他

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館隣の練馬第三小学校では、他の地域に比べ子どもが増えているようだ。美術館隣の美術の森緑地では、いつも多くの子どもが走りまわっている。子どもたちが自由にアートに触れられるような、子どものためのスペースが増えるようにしたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の「こども家庭庁」や、東京都の「子供政策連携室」など、子どもの参画は注目されている。アートの世界では、以前から子どもの参画など取り組んでおり、子どもの視点は大事である。</li> </ul>

副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、美術館の教育普及を広げていきたい。</li> <li>・ 他の美術館まわりやワークショップなどを行いながら、さまざまな美術館の考え方や活動を紹介したい。</li> <li>・ 学校関連についての美術館の教育普及は、継続して行っている。今後の仕切りについてどうするか整理する必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サンライフ練馬北側の都営住宅の広場も、まちづくりに取り込んでいただきたい。</li> </ul>

以上